

2018年7月25日発行

---

世界情勢ブリーフィング

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

---

以下の記事で紹介しましたが、今月に入ってから、習近平国家主席の求心力の低下を示唆するような出来事が相次いでおり、チャイナ・ウォッチャーの間では大きな話題になっています。

- ・「米中の『貿易戦争』の激化？」(7/18)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5768>

また、米中の「貿易戦争」についても、米国批判のトーンが弱まったかのような動きが見られ、中国は方針を変えてきたのだろうか・・・という憶測を呼んでいます。

習近平 2 期目の体制は、以下の記事で述べたように、習近平への権力集中が進み、「強国」路線が打ち出され、欧米が主導してきた秩序に挑戦するかのような、かつてなく自信にあふれた姿勢を前面に出してきました。

- ・「習近平体制 2 期目 (1) : 『皇帝』の誕生」(17/10/31)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=4572>

- ・「習近平体制 2 期目 (2) : 新たな『中華』世界の構築」(17/11/1)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=4575>

その体制と政策路線に動揺が見られ、それが「貿易戦争」に影響を与えている・・・そうだとすれば、これは中国共産党体制の今後と「貿易戦争」の見通しを大きく左右することになり、最大限注視すべき動きといえます。

8 月には北戴河会議 (党幹部や長老が毎年夏に集まる非公式の会議) が予定されています。それまでは状況が流動的のため判断が難しいですが、本日は、現時点で考えられるポイントを述べます。

\*\*\*\*\*

習近平体制の動揺と「貿易戦争」の行方

\*\*\*\*\*

## ●習近平批判

まず、今月に入ってから相次いで起こっている習近平への不満の高まりを示唆する出来事ですが、主なものは以下のとおりです。

・7月4日 上海在住の女性が中国版ツイッター「微博」に「私は習近平とその独裁主義に反対です」と言った後、背後にある習近平の写真入りポスターに墨汁をかけるパフォーマンスを配信、インターネット上で拡散して流行しそうになったので、当局はポスターの撤去等を行い、墨汁をかけた女性（と追随者）は行方不明に（当局が拘束したとみられる）

・7月9日 「人民日報」第一面の見出しに「習近平」の文字が現れなかった（12年11月の国家主席就任以来初めての出来事、15日も同様）  
（※実際はこれまでも11日ほどあり、そこまで珍しいことでもない。）

・7月9日 在米華僑系のメディアが党長老の江沢民、胡錦濤、朱鎔基、温家宝らが連名で経済と外交政策の見直しを党中央に求める書簡を送付し、王滬寧は解任されたいと報道

・7月11日 かつて華国鋒が個人崇拜を進めたが、批判されて誤りを認め、以後指導者の肖像を飾ることが禁止された記事を新華社が転載

・7月12日 当局が党や企業のオフィスから習近平の写真を撤去するように命令したとの噂が流れる  
（※実際に写真の撤去は進められ、党の宣伝も習近平の個人色は薄められている模様。）

・7月12日 中央テレビのキャスターが習近平を呼び捨てにしたと大紀元が報道  
（※これは事実誤認だった。）

こうした一連の動きは、米国との関係悪化を招いたのは習近平の失策ではないか、つまり、習近平の「強国」路線、「中国製造 2025」、米国に対する挑戦的な姿勢が米国との「貿易戦争」を招いたのではないか・・・そして、そうしたスローガンを打ち出したのは党宣伝部のんだから、その責任者である王滬寧が責任をとるべきである・・・といった意見が党内で盛り上がっていることを示しているのだろう・・・こういう見方が流れています。

そうだとすれば、盤石に見えた習近平の権力基盤を揺さぶるものであり、政変が起こるこ

とを予感させる、衝撃的な事態といえます。

ただ、後述するように、これらの事実の真偽と評価には疑問があります。そこまで深刻な事態になるとは思えません。

とはいえ、気になるのは、7月12日、習近平が「党と政府は政治機関であり、旗幟を鮮明にして政治を語らなければならない」という発言をしたことです。「旗幟を鮮明にする」とは、政治闘争の勃発を思い起こさせる言葉で、かなり強い表現です。体制に対して何がしかの異論が出ており、それに対して警告を発するトーンが感じられます。

したがって、習近平体制が打ち出してきたこれまでの路線について、党内で何らかの意見の不一致が生じている・・・という可能性は高いといえます。

#### ● 「貿易戦争」への対応の修正

米国との「貿易戦争」については、中国は、最近、強硬的な姿勢から抑制的な対応に転換を図っているように見えます。

習近平は「貿易戦争」に関して発言を控えており、メディアがトランプに対する個人攻撃を行うことは禁止されているようです。人民日報は「中国の科学技術は米国に遠く及ばない、追い付くためには数世代の努力が必要」という謙虚な認識を示しています。

党・政府・メディアは全般的に報復関税よりも国内経済改革の重要性を強調する傾向にあります。こうした動きからは、米国を挑発する言動を回避しようとする意図が見えます。

前述の習近平批判とこうした米国への対応の変化を組み合わせると、習近平は対米関係のハンドリングについて反省を迫られており、これまでのデレバレッジ路線と経済の失速もあって、北戴河会議を目前に控え、党幹部の責任問題が重要アジェンダとして浮上しているのではないかと・・・という見立てには説得力があります。

また、もう一つ興味深いのは、中国がWTOを中心とする国際ルールの順守とそのための改革をやたらに強調するようになってきていることです。これは、先週（7月16日）のEUとの首脳会議後の共同声明にも現れていました。

・「米中の『貿易戦争』の激化？」(7/18)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5768>

・「今週の動き (7/23~29)」(7/23)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5791>

共同声明では中国はEUが主張しているWTO改革の必要性に同意し、協力を約束しました。また、BMWの過半数出資を認めるなど外資規制を緩和し、企業機密の窃盗に重罰を科すなど、中国自身が変わる必要性も認めました。

こうした姿勢は、国際ルールは西側が主導してきたものであり、フェアではない・・・という主張をたてに改革を拒んできた従来の方針とは異なるものです。

中国はEUと連携して米国を叩こうとしましたが、EUも中国の市場閉鎖や情報窃盗は重大な問題としているので、中国の誘いには簡単に乗ってきません。それを考慮しての対応でしょう。この点でも一定の修正が図られているとみることができます。

#### ●体制の動揺？

しかし、習近平批判に戻ると、これが本当に党幹部の更迭といった事態につながるのか、さらに極端に言えば「政変」につながるのかといえ、おそらくそこまではいえないでしょう。

上記の一連の出来事は習近平の「個人崇拜」が問題にされていますが、そもそも個人崇拜は習近平自身が自らを追い落とす手段に利用されることを恐れ、従来から取り締まりがされていたものです。その意味では新しい動きではありません。

墨汁や人民日報のくだりは大した話ではありません。一番気になるのは長老たちの書簡ですが、これは真偽が分かりません。王滬寧は江沢民・胡錦濤・習近平と3代にわたり党トップを支えてきたブレーンであり、簡単に首を切れる人ではないでしょう。しかも常務委員を途中解任するのは異例に過ぎて、党の権威が揺らぐおそれもあります。

そもそも長い年月をかけてここまで権力集中を進めてきた習近平です。今の「貿易戦争」ごときで簡単に揺さぶられるほど脆弱とは思えません。

「貿易戦争」については、たしかに米国の落としどころが見えない攻撃を前にして、修正をはかっている面はあるのでしょう。

しかし、以下の記事で述べたとおり、中国は安易に屈服する国ではありません。外国にお

もねる動きを見せれば、それがまた「弱腰」と国内で責められる要因ともなります。

・「トランプ政権の『貿易戦争』とハーレーの生産の米国外への移転」(7/2)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5711>

今は雌伏のとき・・・と柔軟な態度を見せながら、トランプに隙が見えたとき、再び強硬論に転じる・・・そして、そのときかつて習近平路線を批判した一派を根こそぎ掃討する・・・こうしたシナリオも十分に考えられます。

そのときには、国家副主席にして、事実上の常務委員として処遇される「消防隊長」王岐山が豪腕をふるうことになるでしょう。王岐山を要職に残したのはまさにこのときのためであり、習近平のサプライズ人事が功を奏した・・・といえます。

冒頭述べたとおり、この問題は流動的で、今の時点では確たる見通しが立ちません。

まずは8月の北戴河会議が一つの山場となります。北戴河会議自体は非公式の行事のため、議論の内容はもちろん、いつ始まっていつ終わるのかすら正式な発表がされることはありません。どこかで会議が終わったという話は出てくるので、そのタイミング以降の動きが極めて重要です。

\*\*\*\*\*

あとがき

\*\*\*\*\*

ペルドンさんから、「今週の動き(7/23~29)」のコメント欄で、眞子様の恋人の方の留学の件について説明してくれ・・・とのリクエストがありました。

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5791#com>

こちらがペルドンさんの記事2点。私も興味深く読んでいました。

<http://guccipost.co.jp/blog/perudon/?p=9472>

<http://guccipost.co.jp/blog/perudon/?p=9493>

ということで、お答えをしようと思い、最初は「あとがき」で述べようと思ったら、書いているうちに、思いのほか長くなってしまいました。

後日、独立した記事として書くことにします。少しお待ちください。

---

【発行】 The Gucci Post

(Copyright 2018 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィング HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】 <http://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=395>

【グッチーポスト HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部 Facebook】 <https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部 twitter】 [https://twitter.com/gucci\\_post](https://twitter.com/gucci_post)

【お問い合わせ】 [inquire@guccipost.co.jp](mailto:inquire@guccipost.co.jp)

【内容についての質問・コメント】 [jd.world.briefing@gmail.com](mailto:jd.world.briefing@gmail.com)

※本メルマガの内容は、筆者 JD の個人的な見解であり、グッチーポスト株式会社含めいかなる組織またはグッチー編集長含め他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。